

住民主体の居場所を育てる

～住民の力で地域を持続可能にするために～

ニーズ(困りごと)を知り、アセット(いまある強み)を活用しよう！

参加費無料
100名様
(事前予約制)

[日時] ▶▶ 2021年1月6日(水)
午前 10:00～午後 4:00

[会場] ▶▶ 東成区民センター 大ホール
(大阪府大阪市東成区大今里西3丁目2-17)
大阪メトロ千日前線・今里筋線「今里駅」下車

●基調講演 「住民主体で多機能な居場所をつくる」
内藤 佳津雄 氏(日本大学文理学部教授／本事業研究委員会委員長)

●事例報告 地域特性を生かしたプラットフォーム型居場所の事例

多世代の居場所「ユニバーサルステーション」(東京都荒川区)
「子ども村:中高生ホッとステーション」代表 大村 みさ子 氏

東灘こどもカフェ「こもれど」 代表 中村保佑 氏

※他、調整中

●パネルディスカッション 居場所を育てるための支援とは

●ワークショップ いまある強みを生かして多機能な居場所を育てよう

- ① 地域資源と地域特性をみなおそう
- ② 居場所の価値をチェックしよう

🌱 高齢者など地域住民が相互に支え合う居場所をひろげたい方
🌱 今ある地域の居場所を育て、長く続けたい方

お申込み
お問い合わせ

申し込みフォーム <https://forms.gle/2gTUZLRx8zUdMY21A>

TEL 03-5426-2547

※裏面にQRコードあります。又は、主催者ホームページのリンクからもお申込みいただけます。

主催：一般社団法人全国食支援活動協力会

住民主体の居場所を育てる

●開催目的

- 住民が相互に支え合う生活支援サービスの充実を、居場所を介することで加速させましょう。
- 持続的な活動とするためのノウハウを先進事例から学びましょう。
- 地域特性の違いにも着目し、新旧の住民組織等がそれぞれの得意領域を活かす連携を考えましょう。

●背景

- みまもり、配食、移動支援等の高齢者を主対象にした生活支援サービスの必要性はますます高まっていますが、担い手の高齢化が顕著であり、持続可能性が課題となっています。その一方で、子ども食堂等、多世代・多様な人を対象とした多機能な居場所では、新たな担い手が育っていることがわかってきました(2018年度調査より)。
- コロナ禍の影響で、高齢者にとって、人が大勢が集まる場所(交通、外食、娯楽等)のリスクが高まっています。不特定多数で集まる行事が難しくなり、お互いの素性がわかる小さな地域単位での活動の重要性は増しています。
- コロナ禍においても、多くの団体が住民主体の配食サービスやフードドライブなどの取り組みは継続していて、居場所の早期開催は地域住民から強く望まれていました。

●対象

- 住民組織開発に関わる全ての方
(生活支援コーディネーター、自治体職員の方、社会福祉協議会・ボランティアセンター等の生活支援サービス提供団体を支援している組織・機関の方)

お申込み
フォーム
QRコード



- ※ 原則、会場内ではマスク着用のご協力をお願いします。
- ※ 会場に入る前、当日の体温を測らせていただきます。
- ※ その他、不安なことなどありましたら、ご相談ください。

一般社団法人 全国食支援活動協力会

〒158-0098 東京都世田谷区上用賀6-19-21
TEL: 03-5426-2547 E-MAIL: infomow@mow.jp